

離着陸時はヘリ→水平飛行は飛行機

【大樹】独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）は、町多目的航空公園で垂直離着陸（VTOL）無人航空機の実験に取り組んでいる。同航空機は固定翼機とヘリコプターの短所を補うもので、昨年、静岡県内で飛行試験を行ったばかり。大樹では小型の機体で基礎データの取得に努める。23日午後には屋外で上空に飛ばし、機体の動作確認を繰り返した。

JAXA、大樹航空公園で 基礎データ収集、自動制御試験



町多目的航空公園で垂直離着陸無人航空機の実験を行うJAXAスタッフ

無人VTOL機実験

JAXAは数年前から同航空機の開発に着手。4枚の翼にそれぞれプロペラを取り付け、離着陸時はプロペラが上向き、上昇中や上空では翼の角度を変えて飛行する。固定翼機は広い滑走路や離着陸エリアの確保が必要で、ヘリコプターは長距離や高速飛行性能が足りない。それぞれの短所を克服した航空機として期待される。

今回の機体は、木製で長さ1.4メートル、横幅1.4メートル、重量約4キロの小型ラジコン機。JAXAスタッフ5人が22日から準備に入り、26日まで実験を繰り返している。地上でパイロットがコントローラで操縦、機体に搭載したGPS（全地球測位システム）や加速度計などの計測装置の機能を確認するほか、短時間の自動制御飛行も試みる。

23日は機器を搭載せず、機体をコントロールできるかをチェック。高度50メートルを約10分間飛行した。JAXA飛行技術研究センター先進無人機セクションの村岡浩治リーダーは「聞いたことがない」「村岡リーダー」という。（北雅貴）



2009年(平成21年)

6月24日 水曜日

発行所: 十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表) 0155-22-2121